

⑤「子どもたちへのメッセージ」 テキスト情報

(司会：大西)

今、学校でも防災の教育というのは非常に活発に行われていると思いますが、お二方から子どもたちへのメッセージをお願いします。

(目黒教授)

これから 30 年とか 50 年ぐらいの間に、首都直下地震とか南海トラフの巨大地震というのは多分高い確率で起こります。加えて今地球温暖化で、気象災害が激甚化したり、あるいは頻発化したり、こういう環境です。ですから、今子どもたちが大人になって、一番頑張っている時代というのが、残念だけど大きな地震が発生したり、大きな台風が襲ったり、そういう時期と重なります。その時に子どもの時から防災のことを一生懸命考えて、例えば「災害イメージーション」を豊かに持っている人と持っていない人では、すごく大きな差になります。自分自身の大切な命だとか、将来の自分の旦那さんとかお子さんとか奥さんとか、そういう家族とかを守れるかどうかは、ご本人たちにかかってきます。

もちろんその子たちを教育する社会の問題でもありますが、でも最終的には、今日何度も議論になったように、その災害の最中に自分の命を守れるのは誰かという、自分しかいないのです。もし誰かが助けてくれるのであれば、それは隣人です。だからやっぱり一人一人の個としての人間の防災力というのが基本です。そういう人たちがいっぱい住んでいる地域は、防災力の高い地域とか高い会社とか高いマンションとか、そうやっていきますので、ぜひ大人を信用するなという意味ではないですが、大人に期待していて、自分たちは言われたことだけやっていたらいいかということでもない、ということをやぜひ今の子どもさん、若い人たちには伝えたいです。

あなたたちがこれからの日本や、川崎市を作っていくのです。私は大いに期待しています。

(川崎市長)

今児童生徒さんも学校で防災について学ぶ機会は非常に多くなっていると思います。例えば、自分の通学路が地震になったときどういう被害が想定されるかとか、このブロック塀が危ないなとかをやっている学校もたくさんあって、意識は高まっていると思います。しかしそれ以外のことっていうのをもっと想像力を膨らませてもらいたいと思います。自分の学校、通学路もそうですし、いつも遊んでいる場所、ご家族が今どういう状況に、例えば昼間行ってご両親は仕事場に行っているとき、どうやってお父さんお母さんに連絡を取るのがいいのかとか、あるいはどこで待っているよとか、そういう家族会議をむしろ子どもさんたちがリードしてもらいたいと思います。大人の皆さんにも自覚してもらいたいけれども、子どもさんたちもぜひリーダーとなってもらいたいと思います。

先生から将来的なことを考えると、より激甚化するだろうし、そういう時代に重なる可能性というのは極めて高いということもありましたけれども、それこそいつ来るか分からないので、まずは自分の命を守る、そして友達、大切な家族の命を守るために、どのように自分たちが行動できるかということを考えていただいて、そしていろんな人とコミュニケーションを取ってもらいたいと思います。